

2018年度 年主題「イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で」

1・2歳児 2月主題 「いっしょに」

月のねがい

- ◎寒さの中にも神さまが春を備えていてくださることを知る
- ◎いろいろな活動を通して、友だちや保育者と一緒に遊ぶ楽しさを味わう
- ◎全身を動かしたり、手や指を十分に使って遊ぶ

3・4・5歳児 2月主題 「響き合う」

月のねがい

- ◎神さまがくださった互いの賜物に気づき、より深い親しみと喜びを感じる
- ◎友だちと想いを伝え合う中で、違いを受け入れたり、折り合いをつけたりしながら協力する体験を重ねる
- ◎友だちの喜びや悲しみに寄り添うようになる

今月の聖句

「主よ、お話しください。しもべは聞いております。」

I サムエル3:9

今月は幼児時代のサムエルについて考えます。

サムエルは紀元前1200年ほど前のイスラエルの子どもでした。彼が夜寝ているとき、不思議な声を聞きました。神さまが彼に語りかけられたのです。このとき、彼は表題のような発言をして、神の声を耳を傾ける人になりました。長じて、サムエルはイスラエルの預言者となり人々の心の支えとなる人になりました。

羊飼いの少年ダビデをイスラエルの王にまで育てたのもサムエルでした。彼はいつも神の言葉に耳を傾け、行動しました。めいろうこども園の園児のみなさんも、第2、第3のサムエルに続く者となってほしいと思います。

前理事長・牧師 池田公榮



2月の行事予定

9日(土)	おゆうぎ会
12日(火)	振替休日(1号)
15日(金)	お別れ遠足
20日(水)	誕生会(2・3月生)
21日(木)	シオンの仲間大会
23日(土)	誕生会(0・1才1~3月生)

3月の行事予定

1日(金)	参観日(3・4・5才)
2日(土)	参観日(2才)
7日(木)	弁当の日
15日(金)	第61回卒業式 父母の会総会
19日(火)	修了式(1号午前保育)
23日(土)	入園準備説明会
29・30日	休園日(新年度準備の為)

平成31年度の学級編成について

認定こども園の学級編成の基準に、『満三歳以上の園児については、一学級の園児数は35人以下を原則とする』とあります。本園の場合、来年度において4・5才児を一クラスにすると、予定では37人となり、このままでは基準を越えてしまうことになります

進級の時期を迎えこの事態をクリアするために、今回3才以上児を3・4・5才児混合クラスの2クラスにしたいと考えております。突然のことで、保護者の方々は戸惑われるとは思いますが、現状の保育室数や保育者数を考慮すれば、この方法しかないのではと思っております。

混合クラスにしたときのメリットやデメリット等を職員間で話し合い、検討し、スムーズな新年度を迎えられるよう準備をしていきたいと思っております。何とぞご理解いただき、ご支援をいただきますようお願いいたします。



園長

募金のお礼とお知らせ

先般実施しましたお年玉募金にて34,266円集まりました。貧困対策等に役立てられるよう日本国際飢餓対策機構に送金させていただきます。皆様のご協力を心から感謝申し上げます。



寒さの中に温かい心を
立春間近の大寒の季節です。種子島はまだ、昨年ほどには寒波襲来がないのですが、それでも週末は少し寒くなりそうです。とは言え、寒さの中にこそ春遠からしで、しっかりと寒さを味わいながら春を待つ思いも楽しみたいと思います。

九州での生活し知らない私などは想像もできませんが、北日本での猛吹雪や暴風雪の状況は過酷の一言に尽きます。報道で大荒れの北海道の様子を見ておられると思いますが、吹雪の中で命を賭して娘さんの命を守り抜いた父親のお話です。平成二十五年三月二日。北海道でも特に、厳しい寒さと雪の多い湧別町でその事故は起こりました。一年前に奥様を亡くされた漁師の岡田幹男さん(53)は、一人娘の夏音さん(9)との愛情にあふれた二人暮らしでした。明日はひな祭りという事で、ケーキを予約してささやかなパーティーを楽しみにしていた二人に、猛烈な暴風雪が襲いかかりました。学童に夏音さんを迎えに行った帰り道、視界不良で車が雪に乗り上げてしまったのです。すぐに友人に携帯で助けを呼びますが、この猛吹雪の中、友人は外にも出られず、消防署に助けを求めますが、多くの救助依頼で動けないと、車の燃料も無くなりそうなので、近くの知人の家へ歩いて行くと言いつつ、残し連絡が途絶えしました。ホワイトアウトの中を彷徨い、ようやく倉庫を見つけたのですが、どうしても開けられませんでした。三日の早朝、警察官が二人を発見しました。岡田さんは着ていた薄手のジャンパーを夏音ちゃんに着せ、雪が入ってこないように、両手で強く覆いかぶさるように抱きしめて亡くなっていくように、両手に埋もれながら死を覚悟した瞬間から十時間の間、父は、祈る思いで娘を抱き続けたのでした。

奥さん亡き後、心の灯火であったであろう娘を自分の体温で暖め、命の灯火が消えた後もずっと暖め守り抜いた業は、人が為し得る最大の愛ではないでしょうか。この無償の愛の結果、夏音ちゃんは凍傷だけで済み、奇跡の生還を遂げたのです。このことを思い出す度に、私は涙を禁じ得ません。つい最近も父親が実の娘を虐待死させる事件が起こりました。何がそうさせたのか想像すらできませんが、守れた命がみすみす失われたことは残念で仕方ありません。この父親は、岡田さんの生き様を知らなかったのでしょうか。子どもを生み育てる尊さを改めて噛みしめる今日この頃です。

おゆうぎ会が終わると、全部の演目をみんなと一緒に表現して楽しみます。小さい子どもたちが、他の表現の動きをよく覚えていくことにも驚かされます。この主体的で自由な活動を導くためにおゆうぎ会があると言っても過言ではないでしょう。寒さが厳しくとも、暦の上ではもう春。次第に日差しや肌に触れる風が心地よくなる季節。残り少ない三学期を楽しんで春はもうそこまで来ています。

学園長

～甘えた人が成長できる～

子どもたちは園生活の中で、甘えたくてもグッとこらえて一日のサイクルについていこうとがんばっています。なので、家庭に帰るとたくさん甘えてくるお子さんも多いのではないのでしょうか。自立させていくためには甘えさせてはいけないのでは？と思うかもしれませんが、家庭は無条件に自分を大事にしてくれる場所。たくさん甘えさせてあげてください。

一人で出来ることでもあえてお願いしてやらせてもらうと子どもは「自分はとっても愛されている」と感じます。わざわざお願いしてやらせてもらおうとするのは、親の気持ちを試したり確認しようとしている証拠。自分の要求を「いいよ」と言ってもらえるのかどうか、親にとって自分は特別な存在なのかどうかを確認したがるのかもしれない。そこで「自分で出来るでしょう」と強制してしまうより「今日はやってほしい気分なんだね」と共感してあげる方が、将来的には心豊かに育つとされています。

子どもは親との絆を深めようと、生まれつき人に備わっている「甘え」という欲求を様々に出してきます。「甘え」を充分に受け止められた子どもは「自分を守ってくれる安全基地」の確保に安心し外の世界へと興味を持ち、世界を広げていきます。このように子どもの心は「甘えたい(依存)」気持ちと「自分でしたい(自立)」気持ちをループのように行き来しながら成長していきます。

厳しさに耐えて甘えない人が成長するのではなく、実は甘えて良い時期に充分甘えた人が成長するのです。甘えて良い時期とは年齢に「つ」がついている間、つまり九つまでは充分に甘え(情緒的甘え)させて良いという説もあります。

自立の基になるのは意欲です。意欲は安心感から湧き出るもの。自立していける人は、充分に甘えて安心感をもらった人です。家の中は子どもにとって無条件に自分を受け入れて愛してくれる場所なので、甘えたりしても「まあ、いいかな」と受け止めて愛情をたっぷり注いであげてください。

